

2025 年 5 月 29 日

各 位

会 社 名 トレックス・セミコンダクター株式会社
代 表 者 名 代表取締役 木 村 岳 史
社長執行役員
(コード番号：6616 東証プライム市場)
間 合 せ 先 執行役員 前 川 貴
経営企画本部 本部長
(TEL. 03-6222-2875)

2024 年度「当社取締役会の実効性の分析・評価」結果の概要について

当社は、取締役会の実効性を高め、企業価値の向上を図ることを目的として、2024 年度における当社取締役会の実効性を分析・評価いたしましたので、その結果の概要を以下のとおりお知らせいたします。

I. 分析・評価方法

2025 年 4 月に全取締役（社外取締役及び監査等委員を含む）11 名を対象に、取締役会事務局が作成したアンケートによる自己評価を実施し、2025 年 5 月開催の取締役会における議論を踏まえ、当社取締役会の実効性に関する分析・評価を行いました。

II. 評価項目

1. 取締役会の構成
2. 取締役会の運営状況
3. 取締役会の審議
4. 取締役会の役割・責務
5. 取締役へのトレーニング
6. ステークホルダーとの建設的な対話
7. 取締役（経営陣）の指名・報酬
8. 総括

III. 分析・評価結果の概要

各取締役による自己評価の結果、当社取締役会は、業務執行と監督の視点が両立した適切なバランスの下、適切に運営されており、全体として有効に機能しているとの評価となりました。

一方で、取締役会における建設的な議論及び意見交換は継続的に行われているものの、経営課題に対する要因分析及び実効性の高い対応策の検討、並びに後継者計画に対する監督機能については、更なる改善の余地があると認識されました。

この評価結果を踏まえ議論した結果、2024 年度の実効性は「おおむね有効であった」と結論付けました。

IV. 前回評価において確認された課題への取り組み

2023 年度の評価において確認された課題に対して、以下の取り組みを行いました。

- ・リスクマネジメントやモニタリング機能の更なる強化に関しては、リスクの早期把握と適切な対応を図るべく、重要な経営情報や業務執行状況について、取締役会に対して適時・適切な情報提供の充実に取り組みました。
- ・経営課題や対応策についての議論の活発化に関しては、経営課題に対する理解と議論を深めることを目的に、取締役間における率直な意見交換の場を定期的に設けるとともに、若手から中堅層の社員を含む幅広い層との対話を通じて、課題の共有や将来のビジョンに関する意見の吸い上げを行い、それらを経営戦略等に反映する仕組みを整備しました。
- ・サステナビリティに関する取り組み及び議論の深化に関しては、基本方針を策定するとともに、マテリアリティの特定を行うなどの取り組みを進めました。

V. 取り組むべき課題

今回の評価結果から、取締役会の実効性を更に高めるために取り組むべき課題として、以下の取り組みが重要との認識を確認いたしました。

- ・当社の企業価値向上のための議論の深化及び実効性のある中長期経営戦略の策定
- ・経営陣のサクセッションプランに関する議論の深化

VI. 今後の対応

当社取締役会は、これらの課題について議論を重ね、取締役会の実効性の向上を図り、これからも中長期的な企業価値の向上を目指してまいります。

以上